

【春光台 SOS 安心ネットワーク】

①地域のお年寄りや住民の見守りネットワークとして各施設等が連携をとって捜索協力を行う。

②この事業を通して、地域に向けての施設の役割を考えるようになった。

【春光台 SOS 安心ネットワーク】

①春光台地区で所在不明者等が出た時に所在確認に協力する取り組みです。近隣施設の方が所在不明になった際搜索活動に出掛けました。

【地域交流懇談会】

①地域の方に介護技術や制度理解を深める為の勉強会を行うものです。関連医療法人と開催し、看護師、介護福祉士、セラピスト、ケアマネージャー、ソーシャルワーカー、管理栄養士を講師として、行っています。

②地域の方々には、いつ直面するかわからない介護の知識や技術を修得する場として活用していただいています。町会単位で見学の問い合わせの対応時、具体的な事例や地域の施設のそれぞれの違い、介護技術の実技を求める声が多いことから懇談会を開催することとなりました。

【東地域ネットワーク懇談会】

①住み慣れた地域で孤立しない、自分の居場所がありいつも誰かと繋がっている。孤独死、孤立死をなくすため地域にネットワークを作り、ともに地域を支えていくことを目的に取組みを始めた。そして以下のサロンを立ち上げた。

東いきいき相談局（毎月1回 15日前後）

地元の郵便局から旧集配室を地域のために活用してほしいと申し出があったことがきっかけでした。サロンとしての機能を果たし、地域の高齢者が気軽に集える場所を提供しているほか、ケアマネージャーや行政書士、薬剤師などから生活に必要なアドバイスが得られる相談会やミニ講座を行っています。また、福祉用具やデイサービス利用者の作品展示など様々な取組・活動も行っています。年金支給日に合わせて郵便局で開催することでリピーターも多く、住民が地域において生活を営む上で孤独感解消や安心感を得ることに役立つ活動を展開しています。参加者の交流の場として賑わうとともに様々な分野の方がかかわっていることから日常生活に役立つ情報を得ることができます。

沼ノ端地域食堂（奇数月第3木曜日）

地元のコミセンでボランティアの協力を得ながら運営を進めています。用意されるすべての料理は地域住民や企業から寄贈された食材で調理します。元気な高齢者の方には開催当日に調理班と設営班に分かれお互いに協力しながら準備をします。参加者は食材の寄贈または100円で食事をすることができます。バイキング形式のため参加者は好きな料理を選びながら相席した参加者同士で食事を楽しめます。地域食堂は「集うこと」が目的で食事を通じて「交流」も生まれます。事前に開催を知っていた方以外

にも当日コミセンを利用していた方も来て様々な年代の交流も見られます。ボランティアの方たちも互いの調理方法を知って学んでいたりと後片付けならできると協力します。それぞれ役割を持って活動しているので地域貢献できる場にもなっています。地域食堂を通じて住民同士の繋がりができ住民が地域活動に貢献できる居場所になっています。

歌声サロン（毎月1回第4金曜日）

コミセンの集会室に月に1度ボランティアで音楽活動をされている方が来て「一緒に歌いましょう」をテーマに活動中です。東地域だけでなく広く苫小牧市内から参加される方もいらっしゃいます。ひとりで参加する方も多くそこで顔なじみになって会話をするようになりたり困りごとの相談につながることもあります。運営はボランティアが主体となり参加していた方もお手伝いを戴けるようになりました。集まる場所がたくさんあって自分に合ったものを選べることを大事にしています。うたった後はすっきりしてまたあすから頑張ろうと思えるそんな場所が歌声サロンです。

②2013年の春、「孤独死・孤立死を防ぐために何ができるか」をテーマに地域のケアマネージャーや介護事業者、民生委員などが集まりグループワークを行ったことが最初のきっかけでした。グループワークでは「どんな方が孤立するのか」「孤立する方を支えるネットワークはどのようなものがいいのか」などたくさんの意見がありました。その後会合を重ね参加者を中心に東地域ネットワーク懇談会を立ち上げました。毎年度末に東地域ネットワーク懇談会を構成するケアマネ、民生委員、介護事業者らが集まりその年の地域の課題、会の活動の成果等を確認します。構成メンバーが情報を共有し、次年度に向けての目標を設定します。会のメンバー同士の結束が強まりみんなで繋がりがながら地域を支えていく機運が高まります。

【地域自治会への協力】

①施設のある地域では、高齢化が進み自治会活動の担い手が不足している。施設が自治会の事務局を担い、広報誌の配布やお祭りへの協力を行っている。

②伊達市大滝区では、自治会活動の担い手不足が背景にあり、施設の人的物的資源を提供し、自治会活動を行っている。特にお祭りでは、会場設営からテント等の貸し出し等大きな役割を担っている。

社会福祉法人 北見市社会福祉協議会

北見市

【役職員研修を市内社会福祉法人に開放】

①平成 31 年度中に立ち上げを予定している市内社会福祉法人との連携強化に向けた環境醸成

②平成 28 年度に市内社会福祉法人に公益的な活動に関する実態調査を実施。併せて、社会福祉法人制度改革に関する法人役職員研修を市内社会福祉法人に開放。平成 29 年度は大阪府豊中市社協の勝部麗子氏を招いて講演会を実施。こうした取り組みを通じて社会福祉法人の公益的取組を推進するプラットフォームを構築する予定。

【風水害対策合同訓練】

①昨今、日本各地では台風、異常気象に伴う豪雨、それによる土砂災害や洪水がおき、甚大な被害をもたらしている。札幌市においては、幸いに被害の発生は見ていないものの、何時このような災害に遭遇するかわからないことから災害弱者である園児、高齢者等を守り災害発生時に職員が適切で迅速な対応ができるよう訓練を行い、併せて防災意識の向上を図るとともに、地域、近隣施設との連携体制の確立を図ることを目的とする。

②地域との繋がり及び施設における防災体制を深める為、平成 28 年度より地域の福祉施設と合同避難訓練を実施してきた。最初は近隣の老人ホームを含む 3 施設で札幌市危機管理対策室を訪れたり防災会社に訓練方法を相談しお互い意見を出し合いながら実施してきた。現在では参加施設も増え地域の身近な人との触れ合う機会も多くなり事前打合せの際には、訓練以外の情報交換もするようになり地域との良い関係性ができている。また、他施設との交流活動を担当する職員も事前に緊急連絡先、避難場所、河川状況等の確認準備も積極的に行い、業務に対するモチベーションの向上も見られるようになった。